

無料

ご自由にお持ち
帰り下さい

平和で豊かな沖縄県を目指す情報誌

沖縄協会だより

2022.1

No.22



平和の絵―「戦争と平和」

20点連作―第6作

西村計雄 作

花風 哀しみをたえて

300号

176×303×6.5cm

沖縄平和祈念堂
所蔵絵画紹介

〈制作意図〉

船出する愛しき人との別れ、哀しみはちぎに乱れる。その心を耐えながら別れの手巾を振る。踊りの中で、この屈折する心象表現を捉え、それを分解させながら一つの構図にまとめあげた新しい試みの作品。それは、作者の戦没者への哀しみと平和への祈りをより強く表現した作品でもある。(昭和56年2月13日寄贈)

西村計雄 (明治42年・北海道生まれ)

東京美術学校卒、藤島武二に師事。1943年文展(現・日展)特選。戦後早稲田中学校と高等学校の教師を勤め、51年に42歳で単身渡仏する。ピカソの画商カーンワイラー氏との出会いを契機に、53年よりパリを中心にヨーロッパ各地で個展を開催。その作品は、フランス国立近代美術館やパリ市美術館に買い上げとなった。フランス芸術文化勲章、共和町立西村計雄記念美術館開館。2000年12月4日没。

沖縄協会は、沖縄が本土に復帰するまでの間、各種の援護活動を行った特殊法人南方同胞援護会(昭和31年～47年5月)の後を受けて、昭和47年9月20日に設置された内閣府所管の公益法人です。新たに設立した財団法人沖縄協会は、南方同胞援護会の実績と経験を活用して、沖縄の振興施策に積極的に協力し、平和で豊かな沖縄県の建設に寄与してまいりました。平成23年(2011)4月1日、沖縄協会は内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けて「公益財団法人沖縄協会」として新たな一歩を踏み出しました。これからも、沖縄県の健全な発展と幸福な社会形成に役立つ事業を行いながら、沖縄平和祈念堂を管理運営することで、平和で豊かな沖縄県の建設に貢献していきます。

公益財団法人 沖縄協会

第43回 沖縄研究奨励賞 受賞者決定

沖縄協会では、沖縄の地域振興、学術振興に貢献する人材を発掘し、育成するため、昭和54年(1979年)から沖縄研究奨励賞を設け、沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究(自然科学・人文科学・社会科学)を行っている50才以下の新進研究者又はグループに対し、その年ごとに3件以内に贈呈している。本年度で第43回を重ね、全国5都府県から20件の推薦応募が寄せられ、選考委員会(牧野浩隆委員長)において、厳正・慎重な選考を重ねた結果、受賞を2件に決定した。

自然科学



小野 尋子

所属：琉球大学工学部 教授
年齢：48歳

研究題目
沖縄本島内駐留米軍基地跡地
利用計画に関する一連の地域
提案型研究

社会科学



萩原 真美

所属：聖徳大学大学院教職
研究科准教授
年齢：46歳

研究題目
占領下沖縄の学校教育

※年齢は2021年7月15日応募時

沖縄本島内駐留米軍
基地跡地利用計画に関
する一連の地域提案型
研究
小野 尋子

受賞理由

駐留米軍基地の多い沖縄県においては、軍用地の跡地利用の問題は避けて通れない重要課題の一つである。小野尋子氏は、都市計画研究の立場から、長年この跡地利用に関する研究を行ってきたおり、貴重な成果を得てきている。

まず、既に返還された跡地の利用形態から出発し、当時の関係者、地権者から計画策定過程および合意形成過程についての綿密なヒアリング調査を行っている。成果は、土地買収の価格設定法、道路計画、土地利用計画と地区計画の導入、施行者と地権者間のパイプ役などの諸問題の検討に活かされ、跡地利用計画と合意形成に貢献している。

また、基地内に立ち入って地下水水位計測ができないため、返還地の緑地と地下水系の計画関係で、必要緑地の広さ、地下水の需要などが具体化しなかった。これらに対し、小野氏は、琉球石灰岩台地における各湧水群

の降水量と湧水量の関係をモデル化し、日流量変化を再現できるシステムを構築している。これによって、基地内に立ち入らずとも大規模緑地の配置計画策定が可能になった。このモデルは実測できない状況で将来の土地利用を構想する際のモデルとして学術的にも高く評価されている。

さらに、普天間飛行場内は自然土地利用が約7割を占め、宜野湾市街地の貴重な地下水の涵養源になっている。そこで、開発地域間の水利用の後先問題、すなわち需要の相互作用が発生する。小野氏は、地下水を産業利用する大山の区画整理事業と普天間飛行場跡地利用計画を対象に相互の計画調整について検討し、問題を整理している。

これらの研究は、米軍基地という特殊な状況下での都市計画研究であり、沖縄県の発展に欠かせない。小野氏は、宜野湾市や県などが主催する各種振興関連会議の専門委員も数多く務め、研究の学術的意義に併せて、成果の沖縄振興に対する貢献度も大きく、沖縄研究奨励賞に値する。

【宮城隼夫 選考委員】



占領下沖縄の学校教育

萩原真美

受賞理由

萩原真美氏の研究・著作『占領下沖縄の学校教育—沖縄の社会科成立過程にみる教育制度・教科書・教育課程』(六花出版、2021年)は、戦後沖縄の社会科成立過程を教育制度、教科書、教育課程などの視点から分析し、それを通じて占領下沖縄の学校教育について論じたものである。アメリカ占領初期の沖縄にとって最大の課題はいかに復興を遂げるかがあったが、学校教育でそれがいかに成し遂げられたか、この点を萩原氏は占領初期沖縄における社会科成立過程を辿ることを通じて検証している。

研究対象とされたのは、アメリカによる沖縄統治開始(1945年4月)によって導入された八・四制がわずか2年で廃止され、1948年4月に日本本土の新教育制度である六・三・三制に学制改革が行なわれた結果社会科が誕生し、社会科の授業が開始される直前(1949年3月)に至る4年間である。

本土と異なり沖縄では、本土教育の目玉となった社会科の設

置は想定されていなかった。しかし八・四制とガリ版刷り教科書に込められた沖縄の主体性と独自性は、米軍政府の援助予算の大幅削減で窮地に陥り、窮余の策として本土から教科書を輸入する方策に変更することとなる。しかし本土の教科書は六・三・三制を前提としていたため、沖縄の教育制度も六・三・三制に変更することとなったのである。

萩原氏の研究・著作の最大の貢献は、戦後初期の教育制度の激変の過程を実証的に明らかにしたことにある。戦後沖縄を方向付ける重要な4年間にいかに教科としての社会科が生まれ、沖縄の歴史の授業を副読本によって実施していくという本土での社会科教育とは異なるものとなったのか、またそれが沖縄の人々の描く沖縄の未来像とどのようにつながっていたのかを萩原氏の研究・著作は明らかにしている。散逸し収集解析が不十分であった戦後初期のガリ版刷り教科書など膨大な資料の収集解析によって戦後沖縄の社会科成立過程を明らかにした萩原氏の研究・著作は、沖縄の戦後教育史研究の前進につながる重要な研究であり、著作であり、労作である。

【櫻井國俊 選考委員】

トピックス

★沖縄平和祈念像「浄め」

12月15日、当協会は恒例行事の沖縄平和祈念像「浄め」を行った。この浄めは、年末年始にかけて開催する「摩文仁・火と鐘のまつり」と新年を迎えるにあたり行われるもの。昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため規模を縮小し、漆芸家の糸数政次さんに沖縄県立芸術大学漆芸分野の専門員と学生、当協会職員など11人での作業となった。今回も平和祈念像の制作に従事した糸数さんに、作業とあわせて祈念像上部にひび割れなどがなかったか表面の現状を確認してもらった。参加者は戦没者の慰霊と世界の恒久平和を祈り、そして、一日も早くコロナ禍の終息を願い、祈念像の埃を払い浄めた。



★沖縄平和祈念堂前室にて 写真展開催

本年度も開催を予定していた「摩文仁・火と鐘のまつり」をはじめ「こどもまつり」「ぬちぬぐすーじさびらコンサートin摩文仁」「沖縄全戦没者追悼式前夜」は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となった。各行事の雰囲気を感じてもらおうと各行事の記録写真を抜粋し、平和祈念堂前室にて写真展を行った。

【写真展の様子】



また、堂内を活用して県内外から訪れる小・中・高の児童・生徒による平和学習が行われ、その際に献納された戦没者の慰霊と恒久平和を祈念して折上げた「折り鶴」を使って制作された工作物もあわせて展示した。

【折り鶴を使った工作物】



協会関係事業他

募集案内

★第30回金城芳子基金募集案内

『金城芳子基金』は、沖縄女性の地位向上のために献身された金城芳子さん(1902-1991)の強い意志により、そのご遺族によって1992年に当協会に設置され、沖縄女性のため、社会的に意義のある活動や調査研究を行う個人及び団体・グループに助成している。

第29回までに29の個人・団体に助成を実施した。第30回の応募締切は2022年3月31日。当日消印有効。

※詳細は、公益財団法人沖縄協会のホームページより

「宵夏」、ふたたび首里城へ

一般社団法人川崎沖縄県人会名誉
会長 比嘉隆（ひがたかし）さん
に執筆いただきました。

川崎市民の誇る大正、昭和
を代表する作詞家、佐藤惣之
助の詩歌碑が那覇市虎瀬公
園から首里城に昨年10月末に
移転完了しました。

惣之助は大正11年に沖縄各
地を歴訪、訪ねた各地の作詞
「琉球諸嶋風物詩集」が上梓さ
れ、その中の「宵夏」を詩歌碑
にしました。この詩歌碑の陶
板は川崎市出身で日本初の人
間国宝陶芸家、濱田庄司によ
り壺屋の新垣榮三郎の協力を
得て製作されました。この詩
歌碑は1959年5月15日、惣
之助の17回忌に川崎市民の寄
付による浄財で首里城跡に建
立されましたが、首里城公園
開園に伴い1キロ離れた虎瀬
公園に移設されました。移設
された詩歌碑は、ほとんど陽
の目を見ることなく、長いこ
と放置された状態でした。そ
れで那覇市在住の「佐藤惣之
助詩歌移設の会」発起人の山
川宗徹会長さん（82）と、賛同
した当時の川崎沖縄県人会
会長比嘉孝（74）の二人の尽力

により今回の移転に至りま
した。やっと川崎市からの修
学旅行生や観光客に同市の
誇る文化人、佐藤惣之助、濱
田庄司と沖縄の関係を詩歌
碑説明文により認知される
ことになりました。

山川宗徹さんには那覇市
と交渉いただき、川崎市議
会議員飯塚正良さんには多
大なるご尽力いただき、感
謝いたします。私、比嘉も那
覇市に二度陳情に出向きま
した。そして協力者の皆様
にも感謝です。長い間、あり
がとうございます。移転除
幕式典は今年5月20日に移
転地首里城で行われます。
皆様のご参加を楽しみにし
ています。

宵夏

しづかきよ、空しさよ
この首里の都の宵のいろを
誰に見せよう、眺めさせよう
まつ毛に明星のともし灯をつけて
青い檳榔樹の扇をもたし
唐の若い詩人にでも歩いてもらはう
ひろい王城の中門の通りを
水々しい螢を裾にひいて
その夏服を百合の花のやうに
この空気に点じだし
さて、空しい空しい
読めばすぐ消えてしまふやうな
五言絶句を書いて貰はう。

佐藤惣之助

1890年—1942年
作家・作詞家。主な作品は、
「赤城の子守唄」、「阪神タイガ
ースの歌」

濱田庄司

1904年—1978年
陶芸家。1955年重要無
形文化財保持者（人間国宝）
に認定。

★沖縄平和祈念堂

改修事に伴う 「寄付のお願い」

開堂から43年を迎えた沖縄
平和祈念堂では、現在、経年劣
化による改修工事を頻繁に実
施しております。今後、さらに
工事の必要が考えられますの
で、多くの皆様に諸経費に対
するご寄付を賜りますようお
願い申し上げます。

感染防止対策 徹底宣言



沖縄平和祈念堂では、沖縄県が作
成した「新型コロナウイルス感染症防止対
策チェックシート」を実施し、「感染防
止徹底対策宣言ステッカー」を取得し
ています。

沖縄平和祈念堂美術館

沖縄出身画家 紹介・11

山里永吉（明治35年生・沖縄県）

沖縄県立一中卒。大正12年日本美術学校に編入。琉球政府立博物館館長、同
文化財保護委員長等を歴任。洋画家、作家として活躍した。著書『沖縄歴史物
語』等多数。平成元年没。

制作意図

ここ数年、琉球舞踊をモチーフに制作、とくに人物表現を通してその美を追求
している。

額サイズ：縦×横×厚【110×80×7 cm】号数： M30

山里永吉作 伊野波節



正誤表

本誌４ページにて誤りがございましたので、下記の通り訂正します。

誤	濱田庄司 1984 年—1978 年
正	濱田庄司 1894 年—1978 年

皆様に深くお詫び申し上げます。